


## N-4 火おこし体験

<b>概要</b>	昔からの手法での火おこし体験を通して、先人の生活の知恵と苦勞を体験し、火の大切さを学ぶ活動			
<b>ねらい</b>	自然に親しむ	仲間づくり・協調性	課題克服・達成感	 HP 詳細へ
	○		◎	
	歴史文化に親しむ	知識	創意・工夫	
		○		
<b>条件</b>	<b>場所</b> あじさい広場、野外炊飯場 他	<b>対象</b> 小学生以上		
	<b>時間</b> 1～2時間程度	<b>人数</b> 60名程度まで可能 1グループ6～10名程度		
	<b>時期</b> 通年	<b>天候</b> 全天候実施可		
<b>準備物</b>	<b>センターが貸し出すもの</b>		<b>団体が準備するもの</b>	
	<input type="checkbox"/> 火おこし器（舞切り式、ファイヤースターター） <input type="checkbox"/> 発火用空き缶 <input type="checkbox"/> 切り出しナイフ		<input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 麻ひも <input type="checkbox"/> ヒキリ板 <input type="checkbox"/> 新聞紙	
<b>展開</b>	<p><b>1 事前（当日までの準備）</b></p> (1) 実施方法、準備物を把握する。（職員との打合せ、相談、随時受付あり） (2) 活動グループの組分けを行う。 <p><b>2 活動（当日の流れ）</b></p> (1) 火おこし方法の説明、安全面の諸注意 → センター職員が行います。直前に内容の最終確認をお願いします。                 (2) 「火おこし体験」の実施 ①火おこし器を上手く回転させて、火種をつくる。 ②火種をほぐした麻ひもに移し、発火缶の中に入れて振り回し、発火させる。 ③その火を新聞紙等に移して、大きくする。 <p>※この後、「野外炊飯活動」に移行すると、熾した火を活用でき、達成感がより高まります。</p> (3) 振り返りをする。 <p><b>3 事後（片付け）</b></p> (1) 火の後始末 (2) 用具の回収、返却 (3) 終了の報告			
<b>実施の留意点</b>	○ 火を扱ったり、発火の際は缶を振り回したりします。安全の確保と事前指導をお願いします。 ○ キャンプ道具の「ファイヤースターター」を使った火おこし体験もできます。ご相談ください。			

N-4 火おこし体験資料

## ヒキリ板の作り方

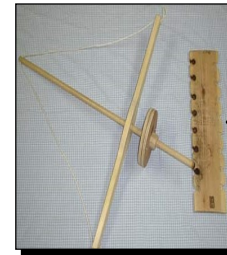
(火起こし器の土台となる板のこと)

① 大きさの違う板を2枚用意する。下の図は目安となる大きさです。

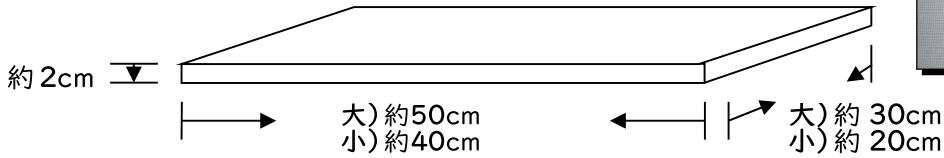
例:大)縦:約30cm×横:約50cm×厚さ:約2cm

小)縦:約20cm×横:約40cm×厚さ:約2cmの板を用意する

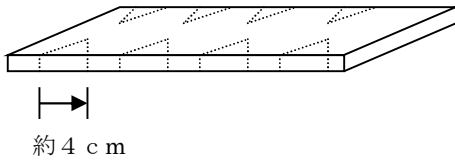
※ヒキリ板(スギ・マツ・ヒノキなどの古材を使用する)



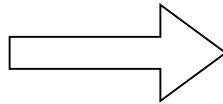
この部分を  
作ります。



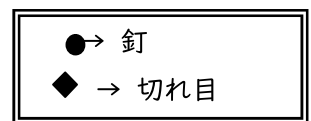
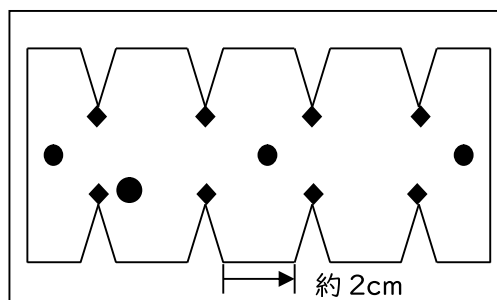
② 小さい方の板を下図のようにのこぎりで三角に切り取る。



③ 切り取った三角形の頂点の部分に彫刻刀などで切れ目を入れる。



④ 加工していない板に釘で打ち付ける。



←※上から見た図

**完成!!**



発火用空き缶



実際の活動の様子